

第2回環境審議会における意見への対応

項目	委員意見	事務局対応
環境アドバイザー 派遣事業	<p>受講者数について、環境アドバイザーとして、市からの派遣以外でも活動しているが、その際の参加者数も算入してはどうか。</p>	<p>市が実施する事業以外の受講者数の算入は、市で受講者数の把握が難しいこと等から、市の事業として受講していただいた方のみを集計しています。</p>
	<p>環境アドバイザー以外の他の活動も含めた数値目標とすることはできないか。</p>	
	<p>新型コロナ感染症の影響を考慮し、目標値を設定する必要があるのではないか。</p>	<p>現時点で、新型コロナ感染症による影響を予測して目標値を設定することは難しいことから、過去の受講者数を基に算出した数値を目標値としています。今後、中間年度等の見直しの機会を捉え、新型コロナ感染症の影響を踏まえた修正を検討します。</p>
	<p>成果指標を受講者数とすると、小規模の団体ではなく、大規模の団体で事業をやるほかなくなるのではないか。</p>	<p>環境アドバイザー派遣事業の現実的な運用としては、受講者数の多少で選ぶのではなく、先着順で実施しているところです。</p> <p>計画に位置付けるにあたっては、定量的な目標としたいことから、受講者数を成果指標にしたいと考えています。</p>
野生動植物等 調査参加者数	<p>せせらぎスクールの参加者数も考慮しているのか。</p>	<p>「水生生物による水質調査」を実施する「せせらぎスクール」は、県が実施する事業であり、市として、参加者数の継続した把握が難しいことから、指標の目標値については、市が実施する「野生生物生息生育状況調査」において市民から提出される調査シート数（延べ回答数）を集計し、参加者数としています。</p>

項目	委員意見	事務局対応
イノシシの 推定生息数	ここ 10 年でイノシシを多く見るようになった、山に食べるものがなくなり、山が荒廃しているからと考えられる。人間主体になっており、共生の理解が不足していると思われる。	生物多様性の重要度について十分に理解されていないと考えられることから、「理解の促進」「確保」「ふれあい機会の創出」に施策体系を整理し、市民及び事業者が生物多様性の価値や行動を認識するように図ります。
水素利用	水素の利用に関する指標が必要ではないか。	現在は、意識醸成を図っている段階であり、今後の国県の動向等も見定める必要があることから、現時点では、成果指標とはしていません。
放射性物質への 対応	放射能性物質への対応について、指標を設定する必要はないか。	<p>除染に関して、市では除染実施計画を別途定め、除染を実施しています。計画の目標を達成したため、今回、環境指標から外しておりますが、環境基本計画の施策体系として、重要なものと考えていることから、放射性物質への対応として、「状況に応じた除染」と「市民の不安軽減」を項目に入れています。</p> <p>環境基本計画の中では、意識啓発なども取り組むべき項目としていることから、今後は、環境指標としての進捗管理までは行わず、環境基本計画に位置付けたうえで取り組んでいきたいと考えています。</p>
その他	地球温暖化防止のためには、CO2 削減が必要、当市は火力発電所があり、削減に向けて、最も重要な施設となっている、審議会として常磐共同火力を見学してはどうか。	<p>常磐共同火力(株)の発電所について、現在、新型コロナウイルスの拡大防止の観点から見学は行っていないようです。</p> <p>なお、火力発電所の今後の取り扱いについては、現在、国において、議論されているところであり、今後の動向を注視する必要があると考えています。</p>